

2026年2月5日

東京電力 HD 代表執行役社長 小早川 智明 様

東京電力 HD 新潟本社代表 柿澤 幸彦 様

東京電力 HD 柏崎刈羽原子力発電所長 稲垣 武之 様

規制庁・規制委員会を監視する新潟の会

代表 桑原三恵

mie.kuwabara756@gmail.com

090-4625-9809

## 柏崎刈羽原発 6号機起動に関する質問

6号機起動に関する御社の公表内容について質問を提出します。ご多忙とは存じますが、ご回答は、メール添付で2月26日(木曜日)までにお願いいたします。

1. 2025年6月12日公表の「6号機における燃料装荷後の健全性確認について」の2ページにある「①燃料装荷後の燃料配置確認・未臨界状態の確認」は、2026年1月17日に実施した「原子炉停止中のみの安全機能の確認」と同種のものと理解しますが、昨年6月12日と今年1月17日の確認も、制御棒1本のみの確認だったのですか。同種の確認で対象とした制御棒は常に1本のみだったのですか。
2. 上記の確認は「運転上の制限」に係る確認でありながら、1月17日の不適合以前には、すべての制御棒について確認を実施してはいませんでした。制御棒の安全性確認が一部に限られ、LCO逸脱が30年に及んでいたことが明らかになっています。簡単な確認作業でありながら、なぜ全数確認を実施しなかったのですか。
3. 1月21日夜の6号機臨界から4時間後に発生した制御棒の電動機制御盤の警報(インバータ故障)で御社は起動操作を中断しました。1月14日にも別の制御棒で同種のトラブルが発生し、その際は、予備品と取り換えることで改善されたため、電気部品の単体不良と判断したことですが、御社の「不適合事象の公表」には、以下が報告されています。

・6号機 改良型制御棒駆動機構の動作確認において、インバータ(直流・交流変換装置)軽故障警報の発生／解除を確認した。当該事象の原因を調査。なお、改良型制御棒駆動機構の機能・動作に影響なし。 2025/10/10

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/press\\_conference/kk-np/pdf/2025/20251113kisha.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/press_conference/kk-np/pdf/2025/20251113kisha.pdf)

・6号機 改良型制御棒駆動機構の動作確認において、インバータ(直流・交流変換装置)軽故障警報の発生を確認した。改良型制御棒駆動機構駆動モーター制御盤電源を再起動し警報を解除済み。当該事象の原因を調査。なお、改良型制御棒駆動機構の機能・動作に影響なし。 2025/10/15

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/press\\_conference/kk-np/pdf/2025/20251113kisha.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/press_conference/kk-np/pdf/2025/20251113kisha.pdf)

上記2件が1月14日と21日に発生した故障と同種のものであるとすれば、1月21日に発生したトラブルは3回繰り返されていたことになります。10月15日発生では「原因を調査」とありますが、原因調査はどの程度進んでいたのですか。

4. 1月21日のトラブルを受けて原子炉を停止したことを御社は「計画停止」と呼んでいますが、実際は「故障による停止」です。誤解や曲解を招かないように、事実を伝える言葉を使ってください。
  5. 昨年6月30日に発生した制御棒の操作監視系の警報の原因は、端子台の亜鉛メッキ力所でウイスカーが発生したことによるとのことですが、亜鉛メッキにウイスカーが発生するという知見を把握していなかったのですか。
  6. 昨年8月25日に発生した制御棒1本の駆動装置の機能停止(全挿入から引き抜けない)に関して、10月9日に公表した「6号機制御棒駆動機構の分解点検について」で、制御棒が引き抜けなかった原因是ラッチがボールナットにしっかり収まっている状態で中空ピストンがガイドチューブ内を下降する際に、ローラーの動きが固く、ローラーがガイドチューブに引っかかったことによると推定したことを明らかにしました。その後、1月8日の参議院議員会館でのヒアリングで御社は、ラッチがボールナットに収まっていたこととローラーの動きが固かったのはスラッジが原因だったと説明しました。これについて私たちは、スラッジの量とスラッジの発生源を質問しましたが、いまだ回答はありません。4点質問します。
- ① スラッジの状況や量等、分解点検した際に把握したデータをすべて公表してください。
  - ② 故障を引き起こすほどのスラッジはどのようにして発生したのかを調査して、結果を報告してください。
  - ③ 10月9日以降に明らかにした「スラッジが原因だ」という見解を文書で公表してください。
  - ④ 中越沖地震後の炉内点検作業で、7号機で1本と6号機で2本の制御棒が引き抜けなくなり、原因はクラッド等の干渉とのことが当時のプレスリリースで公表されています。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/press/backnumber/pdf/2007/19101802p.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/press/backnumber/pdf/2007/19101802p.pdf)

<https://www.tepco.co.jp/cc/press/07112201-j.html>

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/press/backnumber/pdf/2007/19112301p.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/press/backnumber/pdf/2007/19112301p.pdf)

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/press/backnumber/pdf/2007/19112501p.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/press/backnumber/pdf/2007/19112501p.pdf)

今回の事象に関して上記3件の先行事象を参考にしましたか。しなかったのであれば、その理由を示してください。

=====

トラブルには必ず原因があります。原因を把握し再発防止策を実施しなければトラブルは繰り返し発生します。極めて当たり前なこの常識が原発の安全性確保において活かされていません。

原因追求が不十分なトラブルがいつか大きな事故を引き起こす可能性があります。トラブルの原因を徹底的に追及し突き止め、再発防止策を実施する取り組みが十分ではない御社が原発を運転することを認めることはできません。

以上